

鉄橋の上より眺むパンバsgラスと皇帝ダリアに囲まれし家を
北川 秀子

パンバsgラスは超大型のすすき、皇帝ダリアも特別に大きなダリアである。大きい植物大好きな人。いったいどんな人が住んでいるのか。物語的な興味を誘う一首。なお、最後の「を」は無い方がよかった。

ぱたぱたと空の青さをかき混ぜるへり鼻面に光を載せて
加古陽

へりコプターのメカニツクな感じと、人間ばいあるいは動物めいた感じを、うまく言葉化している。

数日をひたすら磨いて過ごしたりまだ色のなき人形の顔
野原亜莉子

一読「えっ！」と驚き、やがて恐いような、寒いような独特の気分におそわれた。人形制作の過程では当然のことなのかも知れないが、数日間、ずっと人形の顔を磨いて過ごしたというのだ。人形の顔なのだから、そんなに大きな顔ではないだろう。人間のこぶしよりも小さい顔を想像する。それを「ひたすら磨いて過ごす」ことのごさ。

物言いのついた相撲に服を着る元力士らが丸く集まる
安藤礼子

大相撲に行き、現場で取り組みを見ての一連。十一月の福岡場所のようである。第三句以下、物言いで審判役の何人かが土俵にあがるテレビなどでは見なれた場面だが、こうしていいねいに言葉化してみせた面白さ。そして現場感。テレビで見て作った歌とはちがう感じをだし

たいと苦心した作者の工夫を読みたい。

「止まらずにご覧下さい」やわらかき監視下に観る
鳥獣戯画図
古島信子

昨年、福岡の九州国立博物館で開かれた鳥獣戯画展に取材した作。九州国立博物館は二回ほどたずねたことがあるが広大な建物。その広大な建物が、「鳥獣戯画展」のときは大混雑したらしい。「やわらかき監視下に観る」が、うまい。

香港で描いて貰いし花文字の「美」のちよんちよんは蝶が向き合う
鈴木陽美

香港土産の花文字をうたう。「美」という字の上の部分は、たしか「羊」。その上部が二匹の蝶になっているという。視覚的な楽しさをうまく表現した。

五十鈴川その美しき名の川に浸せばじんと銀化する
指
大谷ゆかり

新年の伊勢神宮参詣のおりの一連中の一首。結句の「銀化する指」が印象的。水にひたした瞬間、こまかな気泡がまつわったような指の形容としてまことに的確。「川に浸す」として「水」を出さなかつたのも表現的な工夫とみたい。

消しカスをあまた残して帰りにし男子生徒の得点思
う
屋良健一郎

センター試験の試験監督をした日に取材した一連中の作。書くことより消すことにこだわるように、盛んにゴム消しで消していた生徒。ふと人生を思わせる余韻を感じさせる一首だ。